

1 学力向上検討委員会構成

学力向上検討委員	
	職名・校務等担当名
管理職	校長、教頭
学力向上推進員	教諭(教務課長)
委員	教諭(小学部長、中学部長、高等部長)

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(小・中学部) 児童生徒の状況		
よさ	小学部では、児童が各自の支援ツール等を活用することで、見通しを持って安定した生活を送ることができている。 中学部では、将来を見据えて個から集団への活動に移行できるような教育活動を通して、互いの個性を認め合いながら学習することができている。	課題 小学部では、身体の動き・認知・社会性において、発達のアンバランスが見られる。 中学部では新学習指導要領に基づいて、生徒が意欲的・主体的に取り組むことができる学習内容をより充実していくことが必要である。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
〈小学部・中学部〉 個々の児童生徒の将来の社会参加に向けて必要と判断される知識・技能・態度を身に付け、集団や社会の中で共に生きていく態度が身につく。	〈小学部〉 個別の指導計画の自立活動における目標の達成率が85%を超える。 〈中学部〉 全学年において、個別の指導計画における目標の達成率が85%を超える。	〈小学部〉 長期欠席者を除き、達成率が100%であった。 〈中学部〉 全学年において、個別の指導計画における目標の達成率が95%を超えることができた。 ----- 評価 A
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
〈小学部〉 各学年において、実態や目標に応じた自立活動グループを編成し、授業実践する。 〈中学部〉 年間教育計画と個別の指導計画の目標の達成に向けて、目標の確認および学年での授業計画案を作成し実施する。 ----- * 中間期の見直し	〈小学部〉 ・4月中に自立活動シートの研修会を実施した後、個々の自立活動シートを作成し、個別の指導計画に反映させる。また、夏季休業中にケース会を実施する。 〈中学部〉 ・4月に学級担任間や教科担当で生徒の実態をもとに目標の設定や授業計画を立案する。 ・各学年年間1回以上研究授業及び協議、公開授業を行う。	〈小学部〉 ・個々に作成した自立活動シートをもとにし、学年団ごとのケース会で情報共有を行った。9月から実態や目標に沿ったグループ別学習を行った。 〈中学部〉 ・4～5月に学級担任間で目標の設定や授業計画を立案した。教科担当が目標を立案・共有し、生徒の実態に応じて目標設定を行った。 ・各学年年間2～4回研究授業及び協議、公開授業を行う。
達成状況を踏まえた改善事項		
<p>〈小学部〉本学部に設置している自立活動推進委員会を中心に、独自のマニュアルに沿って組織的に進めたことが、達成率につながった。次年度以降も継続して組織的に取り組むことで、各教科等で育成すべき資質の基盤となる自立活動の授業が充実したものと、児童の学力の伸長に繋がると考える。</p> <p>〈中学部〉個別の指導計画での目標が達成できなかった項目の多くは、不登校の生徒の授業未実施によるものであった。登校にむけた支援を継続的に行い、目標の達成率を向上させていく必要がある。また、不登校以外の要因によるものは、目標の設定が適切であったか、実態把握と指導方法の見直しを検討する必要がある。</p>		